

第18回日本周産期メンタルヘルス学会 学術集会

WEB開催

日時 ライブ配信：10月22日(土)～23日(日)

オンデマンド配信：11月1日(火)～12月1日(木)

テーマ 昔にまなび、未来につなぐ 母性のちから
— 今、日本の母を支える

プログラム 会長講演「母性を支える看護のちから」
常盤洋子(新潟県立看護大学教授)／招聘講演「出
産の歴史人類学からみえてきた『母性のちから』—
誕生・子育てにかかわる人々との協働から考える」
鈴木七美(国立民族学博物館グローバル現象研究
部教授)／特別講演「臨床に活かす『サークルオブ
セキュリティ(安心感の輪)』」安藤智子(筑波大学
大学院人間総合科学学術院教授)／理事長講演
「日本周産期メンタルヘルス学会の役割とは何か—
退任にあたり」鈴木利人(順天堂大学教授、順天
堂大学附属順天堂越谷病院院長)／シンポジウム1
「今の時代に求められている、あるいは、発揮され
る、父性のちから」星真一(荒木記念東京リバーサ
イド病院産婦人科産科部長)、鈴木妙子(福島県立
医科大学助産師養成課程設置準備室助教)、竹原
健二(国立成育医療研究センター研究所政策科学
研究部部長)、牧野孝俊(群馬大学大学院保健学研
究科准教授)／2「現代の母親・家族への支援—
家族支援の現場から」葛西香織(宮城県立こども病
院主任、家族支援専門看護師)、村田浩子(長岡京
市役所障がい福祉課主幹、保健師・地域看護専門
看護師)、相川祐里(済生会横浜市東部病院、臨床
心理士・公認心理師・助産師)、深澤友子(群馬大
学大学院保健学研究科助教、助産師・母性看護專
門看護師)／3「“発達障害をもつ女性”の育児支
援— ASD・AD/HDに気づき、支援を考える」藤
平和吉(群馬大学大学院医学系研究科神経精神医
学講座助教)、松浦和枝(淀川キリスト教病院産科
看護課、母性看護専門看護師)、井上尚子(秦野市
役所こども家庭支援課親子健康担当技幹、保健
師)、宇部弘子(日本体育大学児童スポーツ教育学
部准教授)／ワークショップ「母子のための地域包
括ケアシステムを推進しよう」井本寛子(日本看護
協会)、喜多村道代(中国中央病院看護部長)、片
岡弥恵子(聖路加国際大学大学院看護学研究科教
授)／教育セミナー「不安症」伊藤賢伸(順天堂大
学医学部精神医学講座准教授)／「パーソナリティ

症(仮)」小林奈津子(東北大学大学院医学系研究
科精神神経学分野助教)／「精神科医との連携の仕
方」竹内崇(東京医科歯科大学病院精神科精神行
動医学分野准教授)／「看護師が行う精神症状の
アセスメント」武用百子(大阪大学大学院医学系研
究科保健学専攻精神保健看護学教授)／ほか

参加費 [当日参加] 会員・非会員1万円、学生1000円
※学生(大学院生は含まない)は、学生証または在
学証明書を参加登録フォームに添付

参加登録方法 Webサイトの参加登録フォームより

HP <https://procomu.jp/pmh2022/jizen.html>

問い合わせ先 学術集会運営担当

株式会社 プロコムインターナショナル内

〒135-0063 東京都江東区有明 3-6-11 TFT ビ
ル東館9階

TEL 03-5520-8821

FAX 03-5520-8820

E-MAIL pmh18@procom-i.jp

HP <https://procomu.jp/pmh2022/index.html>

日本助産師会

2022年度南北関東地区研修会 in ぐんま

ハイブリッド開催

日時 現地会場＋ライブ配信：10月22日(土)～
23日(日)

会場 前橋テルサ(群馬県前橋市)

テーマ 助産師の未来へ—継ぐもの 拓くもの

プログラム 会長講演 島田真理恵(日本助産師会
会長)／講演Ⅰ「助産師が伝える“いのちの教育”
(公社)群馬県助産師会の取り組み」鈴木せい子、
眞下由利子／シンポジウム「助産師の未来へ—継
ぐもの拓くもの」坂本すが(東京医療保健大学医
療保健学部看護学科教授・学科長)、山本詩子(山
本助産院院長)、中根直子(日本赤十字社医療セン
ター元副看護部長)／Ⅱ「コロナ禍の子育てと子
どもへの影響」明和政子(京都大学大学院教育学
科教授)／Ⅲ「性教育のこれまでとこれから—わ
たしのからだはわたしのもの」高橋幸子(埼玉医
科大学産婦人科助教)／ほか

参加申込期限 9月30日(金)、振込期限10月4日(火)

参加費 会員8000円、非会員1万2000円、学生1000円

申込方法 Webサイトの参加申込フォームより

HP https://g-regi.jp/2022nsgunma/05_regist.php

問い合わせ先 NPO 法人群馬コンgresサポート

☎ 027-260-9014(平日 9:00~18:00)

FAX 027-260-9004

✉ information@gc-support.jp

HP <https://g-regi.jp/2022nsgunma/index.php>

第31回日本新生児看護学会学術集会

(共同開催：第66回日本新生児成育医学会学術集会)

会場開催

日時 11月25日(金)~26日(土)

会場 パシフィコ横浜 会議センター(横浜市西区)

テーマ 新生児看護—未来への贈り物

プログラム 特別講演1「新生児医療の現場よりいのちの輝きを地域の子ども達へ—ちょっと頑張ればできる学校訪問授業の取り組み」川戸仁(はぐくみBaby&Kid'sクリニック)／2「難病を持つ子の親から医療者に伝えたいこと」名和憲進(CCHSファミリー会〈先天性中枢性低換気症候群〉)／シンポジウム「コロナ禍を経て、新しいファミリーセンタードケアを考える」小澤未緒(広島大学大学院医系科学研究科)，早田茉莉(川口市立医療センター)，斎藤朋子(神奈川県立こども医療センター新生児科)，竹島雅子(愛知医科大学病院)，丹羽早智子(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院精神科)／ミニシンポジウム1「耐性菌に対する感染対策どうしていますか？—各施設の取り組みから，赤ちゃんを守る対策を考えましょう」北村怜(東京女子医科大学附属足立医療センター新生児科)，竹原志穂(長野県立こども病院)，畠田幸恵(千葉大学医学部附属病院 GCU)，岡崎薫(東京都立小児総合医療センター新生児科)／2「赤ちゃんの呼吸を優しく整える呼吸ケア」篠田麻里(東京女子医科大学附属足立医療センター看護部 NICU)，小谷志穂(大阪母子医療センター，新生児集中ケア認定看護師)，豊島万希子(神奈川県立こども医療センター NICU)，友滝清一(京都大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門)，浅野大喜(日本バプテスト病院リハビリテーション科)／3「NICUにおける臨床工学技士の役割—今後の展望」小瀧崇行(東京女子医科大学附属足立医療センター)，井出康介(滋賀医科大学医学部附属病院看護部 NICU)，柳貴英(滋賀医科大学小児科学講座)，菅野さやか(北里大学病院周産母子成育医療センター NICU)，渡邊一茂(聖隷浜松病院)／特別企画「2025年の更新に向けた痛みのケアガイドラ

イン：新たなクリニカルエクシジョン」小澤未緒(広島大学大学院医系科学研究科基礎看護開発学)，有光威志(慶應義塾大学病院小児科)，窪田昭男(月山チャイルドケアクリニック，和歌山県立医科大学外科学第2講座)，山田恭聖(愛知医科大学病院周産期母子医療センター)／ほか

問い合わせ先 運営事務局

株式会社サンプラネット メディカルコンベンション事業部

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-5-10 住友成泉小石川ビル 6階

☎ 03-5940-2614

FAX 03-3942-6396

✉ jann31@sunpla-mcv.com

HP <http://jann31.umin.jp/index.html>

日本助産師会

2022年度3部会交流集会

ハイブリッド開催

日時 現地会場+ライブ配信(Zoom)：12月10日(土)14:00~16:30

会場 日本助産師会(東京都台東区)

テーマ 3部会で協力・連携してケア提供していくために—地域での母子支援の連携に向けて

プログラム 講義「助産院での産後ケアの実践」助産所部会長／『とりこえ訪問看護ステーション』での訪問看護の実践」保健指導部会長／「地域の助産所や地域で活動している助産師をどのように母子のケアに活かしていけるか」勤務部会長／グループワーク／発表

※グループワークは1グループ5名程度(各部会の委員がファシリテーターとして入る)

※助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー)® 認証申請の選択研修(修了証発行)

定員 150名

参加費 会員・非会員問わず1000円

問い合わせ先 日本助産師会事務局

〒111-0054 東京都台東区鳥越 2-12-2

☎ 03-3866-3054(代)

FAX 03-3866-3064

HP <https://www.midwife.or.jp/index.html>

※掲載している情報は，2022年8月15日時点までのものです。最新情報は主催者にご確認ください。